# 令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立　日進 中学校 ）　　学校番号　２２６

【様式】

| 目 指 す 学 校 像 | 生徒が希望をもって登校し、笑顔で活動し、満足して下校する学校 |
|---|---|

| 重　点　目　標 | |
|---|---|
| | １　学力向上に関する取組（タブレットの活用、よい授業の分析と活用等）<br>２　安心・安全に関する取組（定期的な安全点検、計画的な教育相談、生徒指導・教育相談体制の整備等）<br>３　地域とともにある学校づくり関する取組（コミュニティスクールに係る的確な情報共有と意見集約等）<br>４　教職員の資質向上に関する取組（各担当主任を中心とした校内研修の充実、小中合同で行う研修会の充実） |

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
　方策の評価指標」を設定。

| 達成度 | | | |
|---|---|---|---|
| | A | ほぼ達成 | （８割以上） |
| | B | 概ね達成 | （６割以上） |
| | C | 変化の兆し | （４割以上） |
| | D | 不十分 | （４割未満） |

| 学　校　自　己　評　価 | | | | | | | | 学校運営協議会による評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年　度　目　標 | | | | | 年　度　評　価 | | | 実施日令和　年　月　日 |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 1 | **【現状】**○生徒一人一台のタブレットＰＣが配付されたが、１割の生徒は修理待ちの状態である。そのような状況下でいかに効果的にタブレットを活用するか今年がターゲットイヤーである。<br>○進路指導・キャリア教育推進のため、昨年度は地元のサッカーチームからゲストティーチャーを招くなどの取組を行った。<br>**【課題】**○タブレットＰＣのより効果的な活用方法については更に研究が必要である。生徒の「深い学び」や「話し合い」取り入れた授業を実践するため、資料提示や情報共有のみならず、「アクティブラーニング」を取り入れながら、思考の深化を実現するための効果的な活用方法を追求したい。<br>○昨年度さいたま市教育委員会から「進路指導・キャリア教育」の研究委嘱を終えたが、今年度も引き続き、生徒の将来を見据えた「生き方」教育を進めている。 | ・スタディ・サプリ等を活用した基礎学力の目指した授業実践<br>・タブレットＰＣを活用した授業実践と研修会 | ①授業の中で、スタディ・サプリを活用し、基礎的な問題を解くドリル学習に取組ませるとともに、家庭学習においては、授業動画を確認させることで学習内容の定着を図る。<br>②今年度も引き続き、タブレットＰＣを活用した授業を推進し、映像資料等を有効的に活用するとともに、「話し合い」を取り入れることで主体的で対話的な深い学びの実現を目指す。 | ①学校評価「学校は基本的な内容をていねいに教えてくれたり、資料や図、道具、情報機器などを使ったり、話合い活動なども取り入れた授業を行っているか」における肯定的な回答が昨年以上（昨年８８％）とすることができたか。<br>②「よい授業」因子④の各項目における平均回答の肯定的数値が昨年以上（昨年１５．９％）とすることができたか。 | | | | |
| | | ・「進路指導・キャリア教育」を推進し、将来の職業等について「自分事」として捉えることのできる生徒の育成 | ①今年度も引き続き、教育活動全体を通して、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す。 | ①学校評価に係る質問「学校生活は楽しいと感じていますか」の質問で肯定的な回答を昨年以上（昨年８９．２％）とすることができたか。 | | | | |
| 2 | **【現状】**○教師と生徒・保護者、学校との深い信頼関係を構築するため、「心と生活のアンケート」等と活用し、相談技術の向上を図るとともに、寄り添った相談活動に力を入れている。また、昨年度に引き続き、外部機関との連携が求められるケースも発生している。<br>○コロナが明け、多くの学校行事が再開され、生徒の活躍の場面が広がっている。<br>○生徒の生徒による生徒のための「日進スマイル委員会（いじめ対策委員会）」を中心に、生徒自らが学校生活改善に取り組む意識の醸成に努めている。<br>**【課題】**○生徒が安心して学校生活が送れるよう、安全な生活環境を保つことが求められる。<br>○事案発生後の対応だけでなく、より積極的な生徒指導を推進していく必要がある。道徳科の授業や特別活動での「話し合い活動」を充実させ、生徒の自己肯定感を高めていきたい。<br>○生徒が活躍する学校行事の内容を充実させ、生徒の自己肯定感を高めていきたい。<br>○ＡＳＵＫＡモデルの更なる定着が求められる。 | ・校内の教育相談体制の充実<br>・生徒提案による活動の充実 | ①今年度も引き続き、日進中独自の「心得の徹底」。また、校内における生徒指導部会及び教育相談部会で、生徒の関する情報共有と対応方針を検討・実践し、個の実態に応じた指導の実践に努める。<br>②「心と生活のアンケート」や学校独自の「いじめアンケート」を実施し、随時実施する教員との面談によって、個の実態の把握に努める。 | ①学校評価アンケート「日進中は保護者や生徒の声に耳を傾けていますか」への肯定的な回答を生徒昨年以上（昨年８２．３％）、保護者昨年以上（昨年８８．５％）とする。 | | | | |
| | | ・アフターコロナに対応した今までよりもより進化した学校行事の実践 | ①校内における企画委員会を中心に、アフターコロナを熟慮したうえで、今までより進化した学校行事の在り方を検討していく。<br>②ＡＳＵＫＡモデルの小学校との合同研修を実施する。 | ①学校評価アンケート「日進中は安全や安心な教育環境整備について、適切に取り組んでいると思いますか」への肯定的な回答を昨年以上（昨年９０％以上）とする。 | | | | |
| 3 | **【現状】**○昨年度スタートした学校運営協議会において、学校運営方針や学校評価の結果を決定・共有し、地域の意見を取り入れながらの学校経営に努めた。<br>**【課題】**○昨年度から始まった学校運営協議会において、地域の意見を取り入れながら、生徒・保護者・教職員が大好きな学校、そして地域に愛される学校経営に努めていきたい。<br>○地域と学校が連携し、取り組むことができるものがないか、学校運営協議会において模索していきたい。卒業を含めた意見を参考にしながら、今年度の最初のテーマを「学校が地域にできること、地域が学校にできること」とした。 | ・生徒が毎日の学校生活を楽しいと感じ、笑顔とあいさつのあふれる学校の実現 | ①教員、生徒、卒業生による懇話会を施し、今後の日進中学校の在り方等について検討する機会を増やしていく。 | ①学校評価保護者アンケート回収率を昨年同様８０％以上（昨年８１．８％）にする<br>②学校評価の生徒アンケートにおける「学校生活を楽しいと感じていいますか」への肯定的な回答が昨年同様８５％以上（昨年８９．２％）とすることができたか。 | | | | |
| | | ・学校と地域が連携した取組の実現 | ①ＰＴＡとの協議を通じて、教職員と保護者が連携し、実施することができる取組を模索する。<br>②地域のボランティア人材の協力を得る。（学校支援ボランティアや部活動サポーターなど）<br>③「日進七夕まつり」への積極的な参加及び近隣の商業施設等や公共施設（小学校等）とのコラボレーションによる生徒の活躍の場を地域の中で増やしていく。 | ①学校運営協議会において、学校と地域、ＰＴＡが連携し、実施する取組を策定し、実践することができたか。<br>②どういう種類や内容のボランティアの協力を得られたか。 | | | | |
| 4 | **【現状】**○研修主任を中心として、タブレットＰＣの活用方法、道徳教育、教育相談などに関する校内研修に取り組んだ。<br>○ＡＳＵＫＡモデルに係る職員研修を実施した。<br>○生徒主体の委員会を組織し、「生徒の生徒による生徒のための学校」の具現化に取り組んでいる。<br>**【課題】**○職員のＩＣＴ活用のスキルには差があり、相互に関わり合いながら、全体のスキルアップが求められる。<br>○主体的で対話的な深い学びの授業の推進<br>○生徒指導・教育相談の個々の技術の向上<br>○人事評価システムにおける研修履歴を活用した、更なる教職員研修参加への推進。 | ・一人ひとりが力を発揮し、学校に集う誰もが居心地のよい（Well-Being）学校をつくる研修の実施<br>・特別活動（話合い活動）を中心とした研修会の実施 | ①年間を通して、ＩＣＴの活用方法や教員採用試験に向けての勉強会（研修会）等について、全ての教員が学ぶ研修を実施する。<br>②一人ひとりの教員が話し合い活動を取り入れた授業を1人１回以上公開する。<br>③独自に実施する生徒指導・教育相談研修会への参加<br>④話し合い活動や伝え方（特別活動）の授業研修会の実施<br>⑤生徒から出てきた要望等を校内で精査し、複数件実現させる。<br>⑥小中合同「接遇」研修会の実施（8 月） | ①「よい授業」の因子③、「先生がパソコンやテレビなどを活用して教えてくれる」の肯定的な回答が昨年同様８０％以上（昨年８１％）とすることができたか。<br>②学校評価アンケート B「学校課題研究は適切な取組が行われたか」の肯定的な回答が昨年同様９０％以上（昨年１００％）<br>③研修履歴を活用し、一人最低 1 回は研修を受けたか。 | | | | |